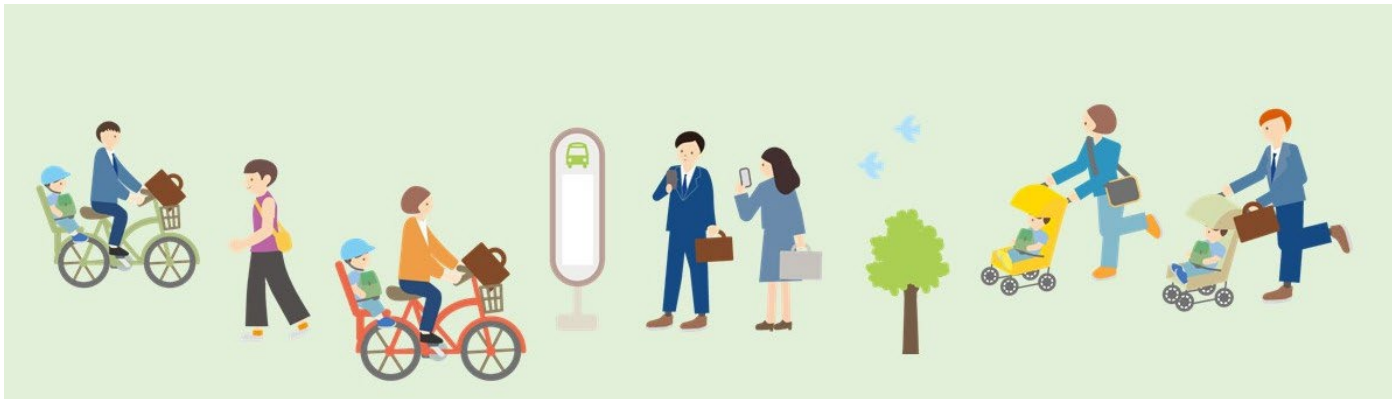


第24回 産休・育休



今回は次女のお話です。彼女は栄養学部を卒業後、すぐに管理栄養士として国立病院機構のとある病院に赴任しました。「修士課程に入って研究への道」もありましたが、その道を試すことなく、まずは臨床で腕を磨きたいと臨床現場に直行しました。臨床現場に立つために登録した学会は、栄養学関連だけに留まらず、臨床医学領域にも広がり、早くから学会・研究会で演題発表したようです。栄養学を選択した動機は、無謀にも、「父親の糖尿病を私の栄養指導と実践で治しちゃう！」というものでした。

しかし、当の父親はとても手ごわい相手で、彼女も早々に身を引かざるを得なかったようです。「えっ؟! 豆腐にカロリーがあるって、うそでしょ!」とか、「今朝いつも通り、牛乳をコップに2杯飲んだけど、カロリーゼロだよね?!」とか、「ビールにカロリーがあるのは知ってるよ。えらいね!」でも、スピリッツ類はカロリーゼロで、飲み放題!」とか。食品の栄養音痴ぶりは枚挙にいとまがありません。何回も教育入院をして、その都度、管理栄養士の栄養指導を受けたのに、「馬耳東風」、「糠に釘」、「猫に小判」、などの格言は、彼を表現するためにあるのだと実感し続けております。幸い、夫の糖尿病にもよく効く新薬が立て続けに開発され、その恩恵に今はどっぷりと浴しております。さらに、かかりつけ医が夫と「超馬が合うお医者さん」で、外来を受診するたびに一緒になって医療行政や薬品や社会の出来事の表と裏の話で盛り上がっているようです。



先日、带状疱疹か肺炎球菌のワクチンを受ける為に、はじめて私がその医院を受診した時のことです。受付で、「ワクチン接種を申し込んだ筒井ですが…」と言った途端、「ご主人は〇〇さんですね、話し方が同じなので直ぐわかりました!」と受付担当者からにこやかな返答が返ってきました。不良患者もここでは嫌われることなく、楽しく通院している様子に、ほっと致しました。久しぶりに、内心ビクビクしながら参加した子供の授業参観を思い出していました。

次女の話に戻します。数年間の病院での現場での修行を無事終え、母校に戻って臨床栄養学の助教になりました。ご存知の通り、大学の教員には教員免許は不要ですが、promotionには博士号の取得が必要です。彼女は博士前期課程、次いで後期課程の大学院に進みました。前期課程は無事修了し、後期課程に入ったところに結婚し、二子をもうけました。社会人枠の後期課程在籍年限ぎりぎり学位論文を公刊し、修了予定です。研究テーマをどう決めたのかは教えてもらっていませんが、学部の学生さんを味方にコツコツと研究を続けていたようです。

コラムの第7回「母上様には足を向けて寝ることはできません」に述べましたように、「お助けマン」を私の母から引き継いだ夫は、次女が第一子をもうけた時から「Web研究相談所」を掲げ、専ら統計学的支援を続けていました。そして、今春の第二子誕生に引き続いて次女の学位論文誕生と一緒に祝いました。この夫、実は神経科学をメジャーとする長女ともCOVID-19関連で共著があり、「今回は次女との共著ができた」、とご満悦です。

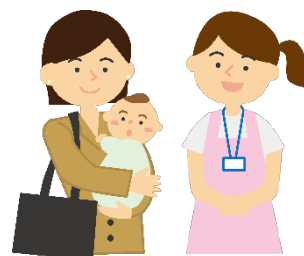
次女は、第一子と第二子の誕生の際は産休と育休をしっかりと取って、お母さんをしています。次女の凄いところは、私とは違い、母親役を楽しむことができることです。私はというと、保育園入園待機の時の育児がつかかったとか、学校指定感染症に罹って元気になっても規則で通園禁止になった子供の相手が大変だったとか、子育てには楽しい思い出がありません。これに反して、彼女は、まだ十分に言葉で表現できないために泣きわめく幼子に対しても叱ることなく、じっと我慢をし、泣き止んで落ち着くのを待って、子供の話を静かに聞くことができるという特技を持っています。



次女の住まいは神戸にあります。第一子誕生の時は私たちの家の近くに一時的に住まいを移したのですが、第二子誕生に際しては出産後も自宅で過ごすことに決めました。退院後は、まだ家事をこなせないため、私たちが交互に出張して食事を作ったり、洗濯物を干したり・畳んだり、とヘルパーをしていました。買い物はネットスーパーで済ませることができて、らくちんでした。私たちの都合がつかない日は、神戸市が提供する出産後のホームヘルプ制度を利用することができて、とても快適だったとのこと。彼女の夫は仕事の都合で育休を取れなかったのですが、帰宅後は毎日掃除や育児に忙しい日々を過ごしています。退院後10日位で、次女は普段通りの生活に戻り、家事と育児をこなす始めました。私たちはお役御免になりました。そんなこんなで、次女の育休は今も快調に続いています。

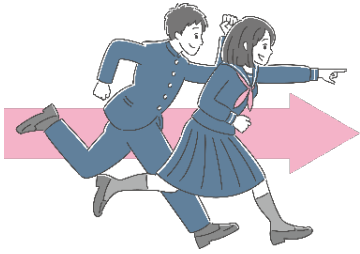
彼女の学位論文誕生に話題を戻します。研究指導教官が医師・医学研究者であるため、臨床医学の専門雑誌に投稿することになりました。その査読のプロセスがユニークだったのです。最初の査読で、revisionの評価を受けました。通常、revisionは2回ぐらいまでにアクセプトとなるのですが、なんとrevisionsを4回繰り返し、投稿後1年以上経ってやっとアクセプトの返事をもらったのでした。この学位論文を基に学位審査も無事に終わりました。今後のキャリアをどうしたいのかを聞いたところ、無事に学位が取れて相応の職位に着けば、子育てと仕事（教育と研究）の両方を、ゆとりを持ちながらバランスよく進めていきたいとの答えでした。あと半年もすると、第二子の「保育園の入園手続き」という一大イベントが始まります。「志望保育園に入園できるのだろうか?」、「職場に戻っても、果たして教育と研究をうまく続けていけるのだろうか?」今も昔も色褪せない光景です。Déjà vu! そして、Good Luck!

出産・子育て・介護などのライフイベントをクリアしながら、promotionの道を歩む女性医師・研究者の皆さん。そして、ご家族の皆様。本当にご苦労様でお疲れ様です。どうか、疲れが溜まらないようにマイペースで歩み続けてください。心から切に願っています。大昔に同じ道を歩んだ先輩より。



長女一家の1年後

去年の石垣島旅行（コラム第23回）に続き、今年も長女一家と一緒に夏旅行に出かけました。発災後間もない熊本を拠点とした旅でした。噂に違わず、泊まった宿から眺める夕日は絶品でした。去年、担任



から、高校入試は絶対無理だとダメだしされた中2男子は3年生になりました。聞いてみると、「今でも塾に通わずに家で勉強しているよ。フッフッフ！最近成績が上がったので志望校のランクを上げたんだ。」そこですかさず、「えっ？でも、受かるの？」と言り返したところ、「絶対受かる」とたいそうな自信です。「じゃあ、成績は合格レベルなの？」と聞くと、「半分くらいかな？でも絶対受かるから！」との返事です。いやは

や、母親譲りの並外れた自信過剰です。中2女子二人は、それぞれ、陸上と卓球の部活に励んでいます。卓球部の中2女子は夏休みの部活は皆勤だって。陸上部の中2女子は、大学アメフトの選手だったお父さんと一緒に走って、楽勝とか。みんな、健やかに育っています。

旅の中、長女はというと、ただひとり、仕事に心が奪われていました。どうも、最近納品された研究用機器のセットアップがうまくいっていないようです。旅の間、毎日製造元にメールを出しては、得られた情報を基に研究仲間をWebで遠隔操作し続けていました。旅が終わりに近づいたころ、「大学に帰る頃には解決できていそう！」、と鼻息荒く息巻いていました。

Déjà vu！そして、Good luck！